

都市づくり市民懇談会アンケート

ア 実施概要

計画策定を進める中で、今後の都市づくりを考える市民懇談会を開催し、参加者を対象としたアンケート調査を実施しました。

開催日時 平成28年12月13日(火) 午後6時30分から
 場所 松本市中央公民館(Mウイング)6階ホール
 内容 ○基調講演 講師 長岡技術科学大学・副学長 中出文平 教授
 演題 将来に向けた松本のまちづくり
 ○松本市立地適正化計画策定に関わる説明

参加者数 約80名
 アンケート回収数 50(回収率 約 62%)

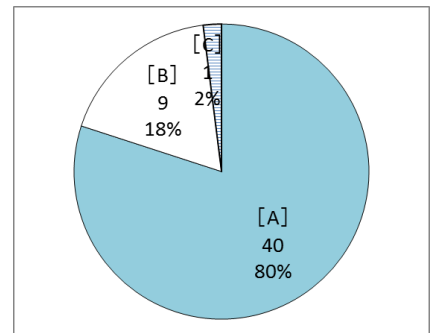
調査項目 (ア)参加者の居住地 (イ)現在の暮らしの中の困りごと
 (ウ)少子高齢化が進むことの認知 (エ)少子高齢化が進む中で心配なこと
 (オ)都市づくり市民懇談会の感想 (カ)都市づくりに対する意見や要望

イ 回答結果

(ア) 参加者の居住地

参加者の 80%が市内居住者であり、そのうち約9割が旧松本市域の居住者でした。その他の地区からの参加は、約1割でした。

旧松本市域からは、計 18 地区から幅広く参加していただきました。一方で、四賀・奈川・安曇地区からは出席いただくことができませんでした。

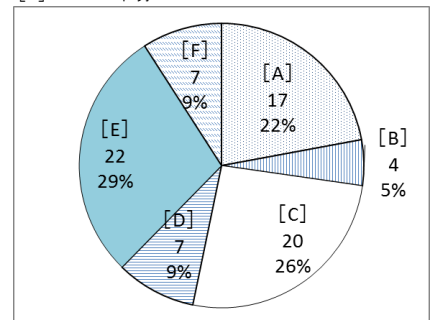


[A] 市内
[B] 市外
[C] 不明

(イ) 現在の暮らしの中の困りごと

現在の暮らしの中での困りごとについて、回答(3つまで選択)していただきました。

「町会活動や地域の担い手不足」、「公共交通機関を使いにくい」、「歩いて行ける所にお店などが無い」の順に回答が多くありました。

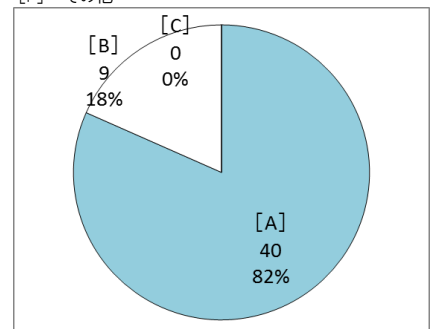


[A] 歩いて行ける所に、お店や病院などが無い
 [B] 大きな商業施設や高度な医療機関などが近くに無い
 [C] バスや鉄道などの公共交通機関を使いにくい
 [D] 空き家や空き地が増えて不安
 [E] 町会活動や地域活動などの担い手が減っている
 [F] その他

(ウ) 少子高齢化が進むことの認知

少子化や高齢化が急速に進むと推計されていることについて、おたずねしました。

8割以上が「よく知っていた」と回答し、「よく知らなかった」とした回答はありませんでした。

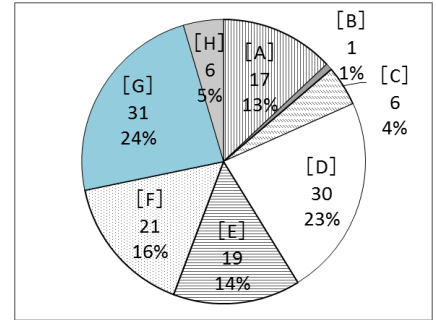


[A] よく知っていた
[B] 何となく知っていた
[C] よく知らなかった

(イ) 将来少子高齢化が進む中で心配なこと

将来少子高齢化が進む中で心配なことについて、回答(3つまで選択)していただきました。

「税込減による行政サービスの低下」、「公共交通サービスの低下により自家用車を利用できない人の移動が不便になること」、「町会や地域活動が継続できないこと」、「空き家や空き地が増えること」、「中心市街地が衰退し、松本の魅力などが低下すること」の順に回答が多くありました。



- [A] 中心市街地などが衰退し、松本市の魅力や活力が低下する
- [B] 高度な病院や大きな商業施設などが無くなる
- [C] 日頃利用している身近なお店やかかりつけの診療所などが無くなる
- [D] バスや鉄道の本数が減り、高齢者や子供など自家用車を利用できない人の移動が不便になる
- [E] 空き家や空き地などが増加する
- [F] 町会活動や地域活動などの担い手が不足し、活動を継続できない
- [G] 税込の減少などにより、市民への行政サービスが低下する
- [H] その他

(オ) 都市づくり市民懇談会の感想

主な感想を以下に整理します。

a 講演等を踏まえた「まちづくりの方向性」に関する感想

公共交通への転換が必要、松本らしさや独自性が必要、土地利用のコントロールが必要、施設は分散すべき、今ある施設を活かすべき、街中に集まるようにアピールが必要、周辺の集落維持も大切、人々が集まることができる街は大切、市民への配慮が必要 など

b 講演等の内容が「わかりやすかった」などとする感想

講演がわかりやすかった、講演をもう少し聞きたかった、取組みの必要性を感じた、取組みの難しさを感じた、更に具体的な話を聞きたかった など

c 開催方法等に関する意見

昼に開催して欲しい、説明等の機会を多く設けて欲しい、地区で説明をして欲しい など

(カ) 都市づくりに対する意見や要望

主な意見や要望を以下に整理します。

a 計画の内容や関連する施策等に関する意見や要望

暮らしと観光のバランスを考えた都市づくりが必要、今後は郊外へ拡大しないことに賛成、特定の拠点に施設などを集約しない方が良く、広域的な検討が必要、市街化区域を狭めることが必要、市街化区域を狭めることは難しい、福祉などに施策が偏っている、外国人向けのサービスが必要、マンションが増えると他の地方都市と同じになる、松本大学を中心としたまちづくりを検討して欲しい、誘導区域外ではサービス水準を下げてもよい、高齢者が住みやすい街にすべき など

b 計画の進め方等に関する意見や要望

計画倒れとにならないように進めて欲しい、住民説明が大切、長い視点で取組むことが必要、行政だけでは持続しない、市民一人ひとりが考えを持つべき、住む人の思いを感じられるように取組むべき など

c 交通施策等に関する意見や要望

公共交通を充実すべき、公共交通に頼るまちづくりは無理、歩いて暮らせるまちづくりに期待する、駐車場を増やし車を利用しやすいまちにするべき、公共交通とまちの集約は併せて取組むべき など

d 公共施設整備等に関する意見や要望

郊外の市営住宅は中心市街地に建て替えるべき、鉄道駅周辺を整備して欲しい など

e その他の意見や要望

集約化しないと固定資産税が減る、地震などの災害が心配 など

第47回松本市都市計画審議会 [H29.1.11開催]
会議要旨（提案・意見等）と対応方針

項目	提案・意見等	対応方針等
1 本市を盛り巻く状況について	ア 松本駅周辺と市街化調整区域の地価は7倍の差があり、地価が安い郊外と比較して、中心市街地は住みにくい。空き家を活用した中心市街地の暮らし体験などを通して、中心市街地に住みたいと思えるきっかけを作りたい。【p19】	(ア) p66「6居住誘導区域(3)誘導施策」に記載。 来年度から居住誘導区域を検討する中で、居住を誘導する施策として、空き家対策等の関連施策と連携した施策を検討する。
	イ 活断層による地震発生リスクについて【p20】	(イ) 活断層による災害リスク等の記載は行わない。 浸水被害や土砂災害と同じレベルで危険性の高いエリアが明らかになった段階で、必要に応じてそのリスクを考慮した計画の見直しを検討する。
2 都市の将来像と誘導の進め方について	ア 企業そのものをターゲットにするのではなく、働く人にとって、働きやすく住みやすい視点が必要【p31】	(ア) p18「経済活動」、p31「暮らしの将来像」の記載を修正。 指摘の視点を持った計画であることがわかるように、記載の内容や表現を改善する。
	イ 高齢化が進む社会では、高齢になっても元気に働くことができる環境が必要【p31】	(イ) p31「暮らしの将来像」の記載を修正。 本市には他都市からの通勤者も多く、広域的な就労の場となっている。高齢者の視点だけでなく、様々な人が働きやすい視点を持って、記載の内容や表現を改善する。
	ウ 島内駅周辺に都市機能誘導区域を設定し、松本インターや合同庁舎周辺に設定しなかったことについて【p26】	(ウ) p27「拠点の評価方法」を説明。 都市構造の拠点は、松本市都市計画マスタープランとの整合を図り設定した。また、都市機能や人口の集積状況の評価した結果、島内駅周辺の方が松本インター周辺よりも拠点性が高いことから、島内駅周辺に都市機能誘導区域を設定した。

項目	提案・意見等	対応方針等
3 都市機能誘導区域等の設定について	ア 子育て施設の誘導について【p42】	(ア) p42「誘導すべき主な施設と運用の考え方」に記載。 保育園等の地域に根差して立地し、地域コミュニティ支える施設は、都市機能誘導区域へ誘導しない。広域的に利用者が集まる子育て支援の拠点施設を計画に位置付け、区域内へ誘導する。
	イ 子育て支援施設については、他の施設を複合化することなどによって、各地に整備して欲しい。	(イ) 庁内関係課と意見を共有。 指摘の内容を庁内関係課と共有し、今後の施設整備や体制づくり等を検討する。
	ウ 障害者支援の拠点施設については、障害者が積極的に社会進出しやすいよう、各地に整備して欲しい。	(ウ) 庁内関係課と意見を共有。 指摘の内容を庁内関係課と共有し、今後の施設整備や体制づくり等を検討する。
4 関連する施策等について	ア 市街地の農地は、都市の緑としても重要	(ア) 居住誘導区域を設定する中で検討。 居住誘導区域の検討において、関係部課と連携し、都市農地のあり方を検討する。
	イ 郊外の集落では、農地などに居住者を誘導したいという考えもある。	(イ) 居住誘導区域を設定に関連して検討。 都市農地のあり方の検討にあわせて、郊外の農地活用等についても、関係部課と連携して検討する。
	ウ 中心市街地には一方通行が多く、循環バスルートの使い勝手が悪い。	(ウ) 次世代交通施策等との連携。 バスの利便性向上にむけて、次世代交通政策などと連携した検討を行う。
	エ デマンド交通などの検討が必要であり、その記載をお願いしたい。	(エ) 個別の交通施策は記載しない。 本計画は、松本市地域公共交通網形成計画との整合を図るものであり、個別の交通施策は記載しない。
	オ 都市計画道路の見直しについて	(オ) 現在の取組状況を説明。 平成22年度に行った見直し路線の検討に基づいて、庁内で検討を進めている。
	カ 居住を誘導するための税制優遇等の施策が必要	(カ) 居住誘導区域を設定する中で検討。 居住誘導を検討するなかで、関係部課と連携し、誘導施策を検討する。

項目	提案・意見等	対応方針等
5 今後の進め方等について	ア 家を建てる若い世代の声を聴くことが大切	(ア) p45「本市が独自に講じる施策」へ記載を追加。 様々な形で計画の説明や意見を聞く機会を設ける。
	イ 将来を担う子ども達に対して、このような将来を見据えた計画について伝えることが必要	(イ) p45「本市が独自に講じる施策」へ記載を追加。 次世代を担う子ども達へのまちづくり教育等を記載する。
6 その他	ア 都市づくり市民懇談会のアンケート結果を公表して欲しい。	(ア) 巻末資料として追加。 巻末資料として、アンケート結果の概要を掲載する。
	イ 年号の表記について	(イ) 記載方法の統一。 庁内の文書事務に則り、原則として和暦で表記する。

都市機能誘導区域の検証 概要

1 目的

平成28年度末に設定する都市機能誘導区域は、原則として居住誘導区域（平成30年度末まで）に設定します。

このため、都市機能誘導区域を設定した各拠点について、居住誘導区域の設定対象に相応しいか、妥当性を検証しました。

2 結果

平成22年国勢調査による将来推計に基づいて、検証した結果を以下に示します。

(1) 現状以上の人口密度が維持

中心市街地・波田駅周辺・信州大学周辺は、現状のまま推移した場合、将来（平成52年）においても現状以上の人口が維持されると推計されます。

(2) 人口密度は低下するが40人/ha以上は確保

南松本駅周辺・村井駅周辺・島内駅周辺・寿台松原周辺は、現状のまま推移した場合、区域内の人口が減少し、人口密度は低下すると推計されます。

ただし、その人口密度は40人/ha以上（市街化区域相当）を維持すると見込まれています。

⇒政策的な居住誘導により、現状程度以上の人口密度を維持する必要性が高い。

(3) 人口密度が40人/ha未満

平田駅周辺は、現状のまま推移した場合、区域内の人口が減少し、人口密度は40人/ha未満になると推計されます。

⇒より積極的な居住誘導により、人口密度を維持する必要性が高い。

人口密度40人/haを維持するうえで、200人程度の居住誘導が必要であり、現在住宅地となっていない未利用地（田畑や空地等）へ誘導施策を組み合わせることも有効。

3 今後の進め方等

(1) 平成27年国勢調査を踏まえた推計等の見直し

現在の検討は平成22年国勢調査に基づいたものであり、来年度以降居住誘導区域の検討にあたっては、最新（平成27年）の国勢調査の結果に基づいて将来人口の推計等の見直しを行います。

(2) 目標値等の設定

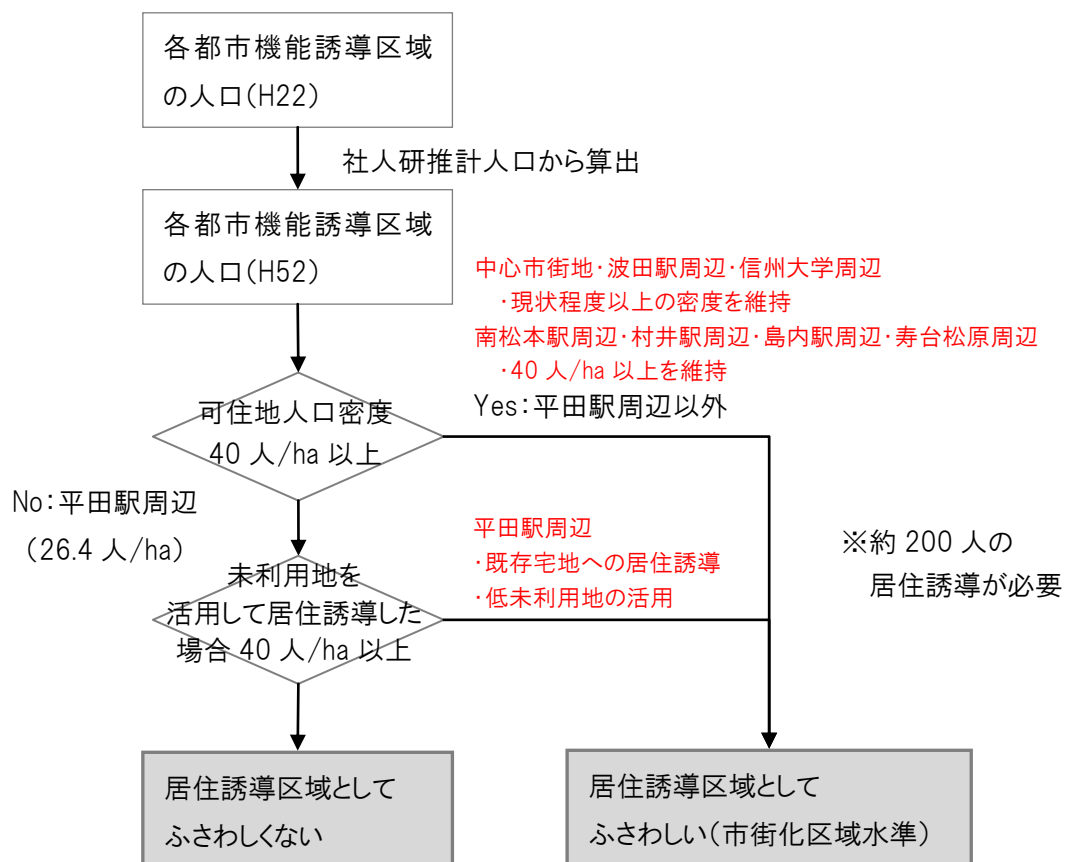
平成30年度末までに居住誘導区域を設定する予定であり、設定にあたっては計画の目標値等を設定します。各拠点の現状や将来人口推計等を精査し、地区の特性に応じた目標値等を検討します。

(3) 計画の評価・進捗管理等

本計画は概ね5年ごとに計画を評価し、必要に応じて見直しを行います。都市機能や居住の誘導

が行われているか、適宜都市構造の分析を行い、計画の進捗を管理します。

■ 検証の流れと結果



■人口・面積

区域名	人口		面積(ha)				人口増減	
	H22 ^{※1}	H52 ^{※2}	区域全体	住宅用地 ^{※3}	未利用地 ^{※4}	可住地		
	A	B	C	D	E	F	B-A	B/A
中心市街地	14,861	15,742	343.7	110.6	37.5	194.9	881	105.9%
南松本駅周辺	4,060	3,690	128.1	27.2	11.2	61.1	-369	90.9%
平田駅周辺	556	355	22.4	6.1	1.0	13.5	-201	63.8%
村井駅周辺	2,402	1,888	64.8	20.4	7.1	38.1	-514	78.6%
島内駅周辺	1,787	1,194	41.7	19.8	2.7	26.4	-593	66.8%
波田駅周辺	1,290	1,554	55.3	16.3	6.0	24.1	264	120.5%
信州大学周辺	1,925	2,027	96.2	15.8	2.2	20.5	102	105.3%
寿台・松原周辺	1,023	725	28.9	8.7	1.3	9.6	-299	70.8%

■人口密度

区域名	可住地人口密度(人/ha)		
	H22	H52	H52-H22
	G=A/F	H=B/F	H-G
中心市街地	76.3	80.8	4.5
南松本駅周辺	66.5	60.4	-6.0
平田駅周辺	41.3	26.4	-15.0
村井駅周辺	63.1	49.6	-13.5
島内駅周辺	67.8	45.3	-22.5
波田駅周辺	53.6	64.6	11.0
信州大学周辺	94.0	99.0	5.0
寿台・松原周辺	106.8	75.6	-31.2

■収容可能人口

区域名	収容可能人口			可住地 人口密度
	H52	未利用地収容分	合計	
	B	I=E×H	J=B+I	J/F
中心市街地	15,742	3,030	18,772	96.3
南松本駅周辺	3,690	676	4,366	71.5
平田駅周辺	355	26	381	28.3
村井駅周辺	1,888	352	2,240	58.8
島内駅周辺	1,194	122	1,316	49.9
波田駅周辺	1,554	388	1,942	80.6
信州大学周辺	2,027	218	2,245	109.5
寿台・松原周辺	725	98	823	85.8

※1 H22国勢調査

※2 松本市500mメッシュH52推計人口(合計値は人口問題研究所推計値)を
H25松本都市計画基礎調査の住宅用地面積で按分して作成

※3 H25松本都市計画基礎調査

※4 H26松本都市計画基礎調査より、田・畑・山林・その他の空地の面積